



2019年 世界と日本で変化のうねりを



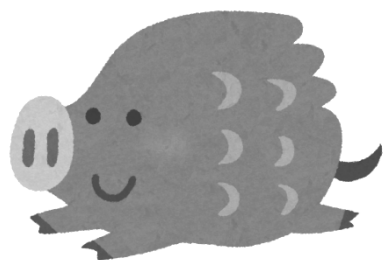
核兵器廃絶へ 市民の声が世界を変える

新しい年、2019年を迎えました。
昨年は、「核兵器のない世界」をめざして重要な前進がありました。

2017年に国連で採択された核兵器禁止条約は、諸国政府と市民社会の共同で実現しました。これまでに69か国が調印し、19か国が批准し、昨年12月に国連総会で採択された禁止条約の早期発効をめざす決議には126か国が賛同しました。近い将来の発効が期待されます。

非核平和の世論を背景に、朝鮮半島で非核化と平和体制づくりが着実に進んでいます。3回の南北首脳会談と、史上初めてとなる米朝首脳会談で、軍事的緊張はなくなりました。

核兵器禁止、平和憲法を 実行する日本を



核兵器のない世界をめざして、多数の国々や人々が行動するなかで、これへの逆流もあります。核保有国のアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の5か国は、「核兵器禁止条約に「支持も、署名も、批准もしない」と足並みをそろえています。

驚くのは日本政府が、禁止条約促進決議に反対票を投じ、被爆者を目の前にして「署名しない」と表明し、平然としていることです。アメリカの「核の傘」に依存しつづける日本政府の被爆国にあるまじき姿勢を変えなければなりません。

ヒロシマ・ナガサキの痛みの経験を経てできた日本国憲法9条を守り、核兵器禁止条約に参加する被爆国にふさわしい政治を実現しましょう。そのために、市民の声と行動が必要です。ぜひ、被爆者がよびかける核兵器廃絶国際署名（「ヒバクシャ国際署名」）に「協力ください」。

(2019.1.6)